

「立って、あの大きな町ニネベに行き、これに向かって叫べ。彼らの悪がわたしの前にのぼって来たからだ。」(ヨナ1：2) 神様にヨナは「立って」と上がれと言ったのですがヨナは下がった。「しかしヨナは、主の御顔を避けてタルシシュへのがれようとし、立って、ヨッパに下った。彼は、タルシシュ行き船を見つければ、船賃を払ってそれに乗り、主の御顔を避けて、みなといっしょにタルシシュへ行こうとした。(ヨナ1：3) 水夫たちは恐れ、彼らはそれぞれ、自分の神に向かって叫び、船を軽くしようと船の積荷を海に投げ捨てた。しかし、ヨナは船底を下りて行って横になり、ぐっすり寝込んでいた。(ヨナ1：5) 神様が「やりなさい」と言っても「いやだ」と言って、ふててしまう。「ふて虫」。あなたは「ふて虫」を持ってはいけません。ヨナはふてたので下がりに下がった。でも神様は「上がれ」と言いました。だから神様は言うのです。「お前の怒っている怒りは本当に正しいのか？」ヨナはずっとふてていたので最期までふてたままで話が終わっています。ヨナはその後でできません。正しい事が出来たのに逃げてしまった。神様は私たち人間を創ったのです。「なぜ？」つなぐために。それぞれの役割を持った人達を、つなげるのがそれぞれなのです。「あなたは、つないでいますか？」「それとも、こわしていますか？」ヨナは「つなげ」と言われたのですが、不満で、嫌で、許せなかったのです。もう腹が立って仕方がないのです。「ふてている」ので何を言われても嫌なのです。神様は正しい事だけを伝えていた。私達は自らの心の内側もちゃんと管理されて保たれています。もしあなたが、外側から入ってくるものを、ちゃんと理解して正しくコントロールすれば良くできるのです。神様があなたを創って、そしてあなたを神様が使おうとしているときあなたは私たちの自分の素晴らしさがわからなくて、食べ物ですら自分をおかしくしてしまっていて、そんな中でも自分を正しくコントロールできたら、あなたの本来が輝いてこの地であって素晴らしい事が起こって、そして天国にかえった時にはもっと神様に喜んでもらえるようになってほしいのです。あなたの本当の素晴らしさが、だめになるよりは正しくなってほしいのです。私たちの内側が良くなくて、あなたの内側が、橋渡しをされる人になったら素晴らしいのです。心も身体もきずついて細胞もボロボロだと、ろくでもないのです。神様があなたの心をいやしたって、あなたが管理しなければいけないのです。あなたの身体をスタボロにしているのはだめなのです。あなたの心が元気で、そしてあなたが、神様と喜んで生活して、そして食生活が改善されたらあなたは輝くのです。

■ 人と神様の間に

今、知恵と知識を私に下さい。そうすれば、私はこの民の前にははいりいたします。さもなければ、だれに、この大なる、あなたの民をさばくことができましょうか。(歴代誌 第二1：10) 彼はへりくだった気持ちを持っていました。ダビデはこれを熱心に求めた人でした。砕かれた、悔いた心、傲慢でない心だからダビデは神に愛された者となったのです。ダビデはつかえる者でしたし、自らが第一線で戦う人でした。神はソロモンに仰せられた。「そのようなことがあなたの心にあり、あなたが富をも、財宝をも、誉れをも、あなたを憎む者たちのいのちをも求めず、さらに長寿をも求めず、むしろ、わたしがあなたをたててわたしの民の王とした、その民をさばくことができるようにと、自分のために知恵と知識を求めたので、(歴代誌 第二1：11) その知恵と知識とはあなたのものとなった。そのうえ、わたしはあなたの前の、また後の王たちにもないほどの富と財宝と誉れとをあなたに与えよう。(歴代誌 第二1：12) ソロモンの考えの中心にあったのは自分ではなかったのです。だれかとだれかの間にはいるために私を使ってください。と言えたのです。あなたの周りでああなたが今、もめている人がいるかもしれません。でもそれは、あなたが会おうために会うべくして会った人なのです。あなたの周りに悩んでいる人がいるかもしれません。その人あなたにあなたが助言するためにあなたがいますのです。怒ってあなたに向かってくるかもしれませんが、それを、怒って一緒に向き合ってはだめなのです。知恵を持ってください。人と語り合うなら。知恵があるかないかは、ちゃんと落としどころがあって、そこに行けるかどうかです。時が解決

するなんていうのは、大間違いです。時が解決したって何も自分の頭の中は解決していません。知恵がないのは「おろか」です。「おろか」になってはいけません。知恵を求めるのはどうやって願うのかと言ったら、人と神様の前に立つために知恵が必要なのです。「知恵」何のために？将来に向かうためです。未来ではありません。未来は未知です。将来はなるべくしてなるという意味です。ですから、みなさんの中にある習慣を取らなければいけません。知恵がないのではだめなのです。知識だけではだめなのです。昔の古い知識にもとづいて、人を判断してはいけません。聖書に知識は人を高ぶらせると書いてあります。だから知識を捨ててください。そして執着を捨ててください。「あなたは何に今、執着していますか？」これがなければだめだ、と思っているもの。何が必要ですか？執着は私達を正しい判断から間違っただけに導きます。私達は知恵を願わなければなりません。その知恵をしっかりとコントロールするために私たちはバランスをちゃんと持っておかないといけません。

■ まとわりつくもの

こういうわけで、このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、いっさいの重荷とまわりつく罪とを捨てて、私たちの前に置かれている競争を忍耐をもって走り続けようではありませんか。(ヘブル12：1) 信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。イエスは、ご自分の前に置かれた喜びのゆえに、はずかしめをものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座させました。(ヘブル12：2) あなたがたは、罪人たちのこのような反抗を忍ばれた方のことを考えなさい。それは、あなたがたの心が元気を失い、疲れ果ててしまわないためです。(ヘブル12：3) なぜ疲れているのか？という、このまわりつくものがあなたにまわりついているからなのです。みなさん、子供を抱いて50メートル走をやってみてください。できますか？疲れるのです。人を憎しむ心を持ったまま正しい事をやろうとすると疲れるのです。あなたが、どうして「ゆるせ」と言われているかということ、相手のためではないのです。あなたのためなのです。ゆるすのは、憎まないのは、ねたむのは、ねたんだまま正しい事はできないのです。となりの人をしっとしたまま、あなたは良い道を歩めないのです。だから、聖書は「ゆるせ」と言っているのです。あなたが、楽に走るためです。そこでエマルジョンが必要なのです。教会が集まるのはこのためです。私たちの心が元気になるに神様に輝けばいいことがおきて神様の栄光があらわれるのです。

■ 逃げない

私たちはこの「逃げる」が最大の問題なのです。ヨナは、下りて下りて下りつづけたのです。神様の存在を知るなら、あなたが置かれた場所に神様が置いたのです。下りる権限はなしです。私の兄弟たち。さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。(ヤコブ1：2) 信仰がためされると忍耐が生じるということ、あなたがたは知っているからです。(ヤコブ1：3) その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは、何一つかけたところのない、成長を遂げた、完全な者となります。(ヤコブ1：4) あなたがたの中に知恵の欠けた人がいるなら、その人は、だれにでも惜しげなく、とがめることなくお与えになる神に願いなさい。そうすればきっと与えられます。(ヤコブ1：5) 神様の前に私たちは逃げない道を歩まなければなりません。あなたに対するストレッチャーがそこにいるという事はあなたが変わるチャンスです。あなたがその人と関わっていくという事はあなたはそその人を通してとがれるのです。忍耐が信仰を大きく成長させて、あなたに練られた品性を生み出します。あなたが人と関わるときに、もし、それが着陸できてないのなら、知恵が足りないのです。世の中の人には知恵ではなく知識で生きているので、相手に知恵はありません。それを、クリスチャンは知恵で解決できるから凄いのです。そしてあなたは、それで水と油をつなぐ人になるのです。あなたがやって上手くいかないわけがない。もともと、あなたは素晴らしく創られた神様のオリジナルの作品で製品ではないのです。

(要約者:小根久保 麻由美)